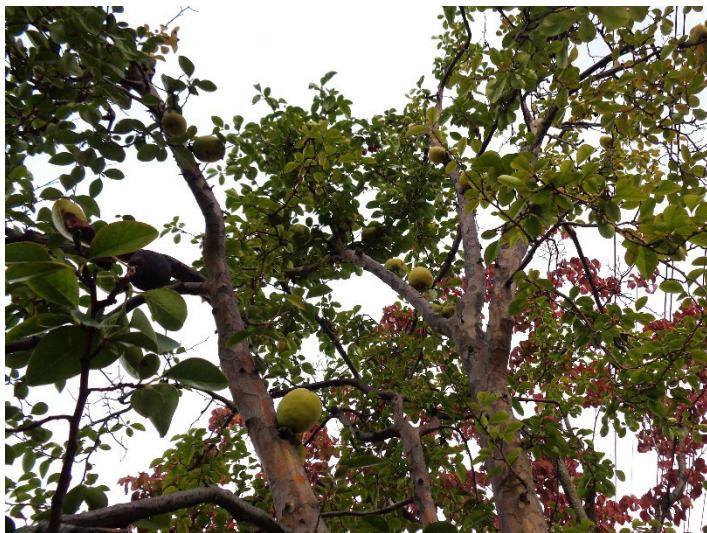


園のおたより



第 6 号

令和 7 年 1 0 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

どっちにしようかな？

園長 関 由起子

先日、雨天順延により月曜日に運動会が行われました。平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。本園の運動会は、「みんなが楽しい運動会」をミッションとしております。まだまだ多くの課題があると思いますが、保護者の皆様もお楽しみいただけましたでしょうか。速い、高い、遠い、多いが価値基準でない本園の運動会には、多くの選択肢があります。種目の中に「どっちにしようかな」と選ぶ場面があり、そのこどもらしい選択が、こどもたちの成長を育んでいるのかな、と感じることが多々ありました。私が感動したいくつかのシーンをご紹介します。

最初に1組さんです。「みんなであそぼう」の「おながく島」でのシーンです。みんなが平らの橋ではなく太鼓橋を選びました。早く到着することが重要ではないので、おそらく太鼓橋のほうが魅力的だったのでしょうか。みんな渡る順番が来るのをわくわくしながら待っていました。そのおかげで、一人ずつ慎重に渡っていく素晴らしい体の動きを、会場のみんなで見守ることができました。

次は2組さんのシーンです。ご覧になった方も多く、ほっこりした気分になられたのではないのでしょうか。「みんなであそぼう」の「がいこく島」の網くぐりのシーンです。網くぐりを阻止する怖いカマキリの前で、5人のこどもたちが網の中でしゃがんで動かなくなりました。前に進むより、カマキリがいなくなるまで網の中で留まることを選んだのでしょうか。最後はカマキリたちが根負けして、こどもたちが網から脱出するのをそっと助けてくれていたように感じました。

3組さんは、「チャレンジ」のシーンです。みんなが「お気に入りの遊び」を選び、保護者の皆様の前で披露しました。運動会の直前まで、どの遊びを披露しようかと、いろいろ試していたこどもたちの姿を思い出しました。お気に入りの遊びに挑戦する姿を、みんなで応援している気持ちが、会場に響く息遣いで感じることができました。

そして、最後は速いことが価値基準となる親子『でかパン』リレーでしたが、来賓の方が「お母さんと同じパンツを履くことに、こどもたちがあんなに喜ぶなんて」と微笑みながらおっしゃいました。私は勝ち負けではなく、こどもたちがどんなに嬉しい顔でパンツを履き、保護者の皆様と走るのか、そればかりに注目してしまいました。

こどもたちと大人たちのおかげで、きらきら輝く楽しい運動会を経験することができました。ありがとうございます。けれども、園では運動会はまだ終わりません。他のクラスの演目を「やってみたい」と思い、こどもたちの挑戦は続いておりますので、是非お家でも聞いてみてください。きっとこどもたちのたくましさに感動するはずです。



ぼうけん

副園長 小谷 宜路

先日開催した運動会、前半は、3組がイメージを広げてつくったコースを楽しみました。当日もお話しましたが、今年度の3組は『エルマーのぼうけん』の物語から派生する形で、5つの「島」を渡るコースを考えました。『エルマーのぼうけん』は、ルース・スタイルス・ガネットさんの作品で1948年に発表され、日本では1963年に渡辺茂男さんの訳として発刊されました。過去には、アニメーション映画や人形劇といった表現になったこともある作品ですので、ご存じの方、小さな頃に出会ったことのある方も多いかと思います。物語は3部作で、主人公エルマーが、みかん島、どうぶつ島、カナリア島といった島々を巡っていきます。物語の書籍には、その「地図」も挿絵のように描かれています。3組の人たちは、わくわくする気持ちから、それぞれの素敵な「島」のイメージを絵と言葉で具体的にし、さらに運動のコースづくりにつなげていました。

冒険をテーマにした絵本は、『〇〇のぼうけん』と題名のついた作品がいくつもあり、題名に「ぼうけん」がなくても登場人物が冒険する要素をもつ作品となると、ほんとうにたくさんあります。「ぼうけん」のお話に共通することは、なだらかな日常を抜けて、わくわくと高揚するような出来事と出会う外向きの気持ちと、何か大変なことが起きるかもしれないという不安や恐れを含んだ内向きの気持ちが、混ざり合っていることにあります。3組のつくった5つのコースのイメージにも、それぞれに両方が混ざっていたように思います。

「ぼうけん」には、『エルマーのぼうけん』や、3組の考えた島々へのぼうけんといった、大きくイメージが広がっていくものだけでなく、日々の生活の中にもあります。来月には、各クラスで遠足も予定していますが、外向きの気持ちと少し内向きな気持ちの両方が混ざった「ぼうけん」の気持ちを共にしながら、園外での一日を楽しんでほしいと思っています。また、小さなこども時代を生きている人たちにとっては、大人が「日常」「いつも通り」と捉えていること、つまり、朝起きて…、家を出て…、家族と離れて…、幼稚園の中に入り…、そこで友達や先生と過ごし…、また家に戻ってくる…ということ自体が、大きな「ぼうけん」なのかも知れません。これから、こどもたちが、毎日の「ぼうけん」を楽しんでいけるような幼稚園でありたいと思います。



クラスだより

1 くみ

「運動会のこと」

「今日も運動会しようよ」と登園すると毎日嬉しそうに誘ってくれました。どうやら「運動会」とは、みんなと一緒に集まって楽しいことをすることのようでした。「今日の運動会も楽しかったね。またやろうね」と話してくれて、わたしは運動会っていいなと思いました。そして、こどもたちの未来にも、運動会は楽しいという思いに出会えるといいなと思いました。

入園から優しくしてくれている3組さんが「みんなで遊ぼう」での遊びに誘ってくれた日は、何をするのだろうと3組さんの動きをじっと見ていました。手を貸してくれながら一緒に雲（太鼓橋）を渡ったり、風船（バランスボール）に乗ったり、輝く宝石を見つけたりしていました。もう一回やりたいと繰り返すほどに楽しかったようです。「怖いカマキリに噛まれたの。面白かったの」と、その思いを伝えたくて勢いよく戻ってくる姿もありました。かわいいネコ（三輪車）に乗りたくて、ハンカチやら帽子やらを投げて、もう待てない気持ちを伝えようとするくらい乗りたい人もありました。大好きな3組さんが面白いことに誘ってくれて、気が付けばたくさんの体の動きが引き寄せられていました。思わずやりたくなる環境の大切さを感じました。そして3組さんのバルーンやチャレンジを目にした時には、信じられないくらい素敵なものを見たというような表情でした。それからというものの、憧れの気持ちがさらに高まったようです。大好きな人がみんなと力を合わせる姿から芽生えた気持ちを大切にしていきたいと思います。

「楽しかったね」「わたしは〇〇が楽しかった」「あの〇〇をやってみたい」という嬉しいお話が聴こえたことも、こどもたちの心がわくわく揺れ動くこともたくさんあった素晴らしい「運動会」でした。

終わった後も、楽しかった余韻に浸って、まだ「運動会」が続いています。なんて素敵なのでしょう。



2 くみ

「体をいっぱい動かす喜び」

今月は運動会がありました。学級みんなで取り組んだ「アロハ・エ・コモマイ」のリズムや、3組が考えてくれた遊び、保護者の方と一緒に体を動かす時間など、楽しいひとときをたくさん過ごしました。

3組が取り組んでいたパラバルーンに、2組の人たちは最初じっと見入って関心を寄せていました。繰り返し見せてもらううちに、少しずつ動きを真似たり、体でリズムをとったりする姿が見られるようになり、「やってみたいな」という気持ちが高まっていったようです。運動会の翌日、3組がパラバルーンをしている様子を見せてもらったあと、誘ってもらって一緒に取り組むことができました。動きをリードしてもらいながら、ダイナミックな動きを味わうことができました。

運動会をきっかけに、みんなで体を動かす楽しさが、心地よい季節の中で自然と広がり続けています。継続している遊びとして、氷鬼や子増やし鬼などの鬼遊びがあります。友達や先生に声をかけながら遊び始め、同じルールを共有することが嬉しいようです。

ある日、氷鬼をしていると、鬼にタッチされたのに凍らない人がいました。その後、その人が鬼になり、逃げている人をタッチすると、今度はタッチされた人が凍らずに逃げてしまいました。困った様子で鬼の人が訴えたと、逃げた人は立ち止まって向き合い「さっき〇〇くんが捕まらなかったから」と話しました。氷鬼をしていた人たちが集まってきて「つまりたくなかったんじゃない?」「でも困るよ」と、それぞれいろいろな視点で話す姿があり、楽しく鬼遊びをするために、考えるひと時になりました。夢中になって体を動かすこと、ルールを共にしながら遊ぶこと、その両方の楽しさを十分に味わえるように、これからも、「やってみたい」「楽しい」と感じる気持ちを大切にしながら、日々の遊びや活動を支えていきたいと思います。



3 くみ

「みんなと気持ちを合わせて」

学級 みんなで9月から繰り返しやっていたバルーンを曲に合わせて動いてみると、どんな動きがいいか、こどもたちからアイデアが出てきました。「やっぱり最後は“おまんじゅう”の方がかっこいいよ」と難しい技に挑戦してみることにになりました。なかなかうまくいかない部分は、お互いに見合ってよりよくなる方法を模索しながら、声を掛け合ってタイミングを合わせたり、みんなで動きを確かめたりしながら少しずつ自分たちのイメージした動きに近付けていきます。何度も挑戦してやっとイメージ通りの動きができると「やったー」と大きな声で嬉しさを共有しました。これまでうまくいかなかった分、みんなの気持ちが一つになった瞬間でした。退場する時の歩き方もバルーンごとにかっこいい歩き方を考えました。みんなで一列に歩いた方がかっこいいと音楽に合わせて並んで歩く姿、みんなで肩を組んで歩く姿、どちらの姿もみんなできったという誇らしげな思いがにじみ出ているようでした。

チャレンジでは、以前の3組への憧れから、自分たちでもやってみたいという声があり挑戦してみることにしました。遊びの中では、うまくいくまで何度もやってみる姿や友達の動きを見て初めてのことに挑戦してみる姿がありました。頑張っている友達を見て、自然と応援を始める人もいました。互いの姿に刺激をもらいながら、一緒にやってみることも応援することで少しずつみんなの気持ちが合わさっていく姿がとても素敵だと思いました。

運動会では、たくさんのあたたかい声をありがとうございました。「幼稚園で最後の運動会だったんだよね。とっても楽しかった」と、“みんなで遊ぼう”やバルーン・チャレンジなど自分たちで考えたことをみんなで力を合わせて取り組めたことに嬉しさを感じているようでした。今年の運動会は「うんどうかいがはじまるよ。がんばろうね」という掛け声から始まりました。この言葉の中には、「“がんばろうね”があった方が、みんなで頑張るぞーってなるからつけた方が楽しい気持ちで始められると思う」という3組の思いが込められていました。一つ一つの言葉の中に、その言葉では表しきれないようなそれぞれの大切な思いが詰まっていることを改めて感じました。それぞれの思いをみんなで大切にしながらこれからも過ごしていきたいと思います。

